

佐渡トキ野生復帰支援関係団体との交流

実施日：令和5年1月11日から13日

能登トキファンクラブは佐渡トキ野生復帰支援団体と上記日程でお互いの活動実績の報告及び今後の課題など意見交換を行い、お互いにトキ野生復帰を成功させるために協力していくこととしました。

参加者

穴水町： 企画課課長補佐 牛谷政樹

能登トキファンクラブ：宮下源一郎、滝井元之、吉村扶佐司、新田耕司

佐渡市農林水産部副部長兼農業政策課長・朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会事務局長：中川克典

佐渡市農業政策課トキ・里山振興係長：池田一男

佐渡市農業政策課トキ・里山振興係主任：土屋智起

トキ水辺づくり協議会会長：板垣徹

NPO法人トキとき応援団理事長：中川純子

トキガイド連絡協議会副会長：品川三郎

1) 佐渡市との意見交換（11日15：30～17：00）（佐渡市側：中川克典、池田一男、土屋政起）

・佐渡におけるトキの現状



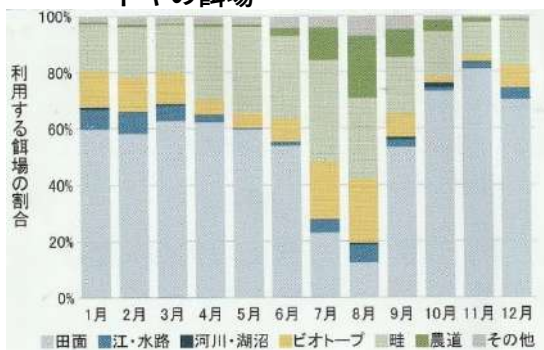
佐渡の野生下でのトキは左図に示しました、放鳥トキの野生下での生存数は減少傾向にあります、原因は遺伝的問題、野生下での適応能力が弱いなどが上げられました野生下でのトキ数は野生下で誕生したトキが順調に増加しており、総数も増加している、令和4年12月には569羽と推測されている佐渡での生息数上限は当初1,000羽と予測されていましたが、最近では700羽と修正されています

・佐渡市が目指すトキとの共生

右の写真ですが通学中の子供たちとトキの距離感が物がっているように、子供たちもトキもお互いを意識していません、お互いの信頼があります、佐渡が望む象徴的な写真です



・トキの餌場



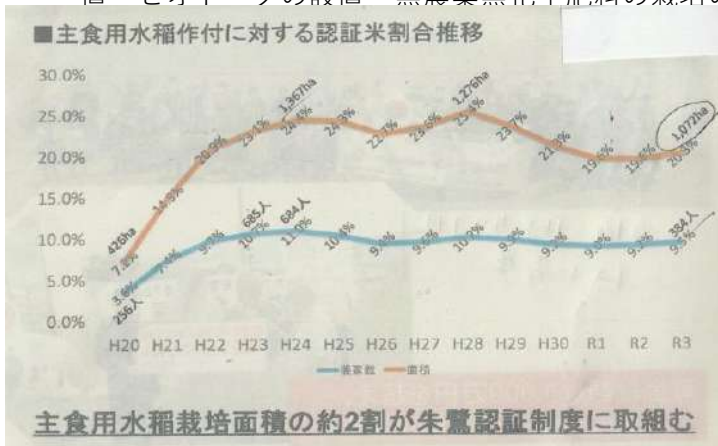
左図に示したようにトキの餌場は季節によって比率に差がありますが田面、江・水路、ビオトープ、畦、農道で90%以上となっています、稲が成長している7、8月は田面を利用できずビオトープが貢献しています

このことから田面・江・畦などの水田管理、ビオトープづくり、田と水路を結ぶ魚道の設置が重要であり次のような施策をすすめている

①**認証米制度**：この制度は佐渡米のブランドを高め全国に販売することにより、農家の収入を増やすとともにトキ支援金の確保を目指す

佐渡の認証米水田はピーク時に1,367haとなり、令和3年には1,042haに減少しています
 認証米として認められるには次の条件に該当することが必要です

- (イ) 佐渡で栽培された米であること
- (ロ) 生き物を育む農法により栽培された米であること
- (ハ) 生き物調査を年2回（6月・8月）実施していること
- (ニ) 農薬・化学肥料を減らして（佐渡では5割以上）栽培された米であること
- (ホ) 水田畦畔等に除草剤を散布していない水田で栽培された米であること
- (ロ) に該当する条件は次である（・江の設置・冬季湛水・魚道の設置・ビオトープの設置・無農薬無化学肥料の栽培の5条件の1つ以上を実現すること）



因みに、佐渡ではJAが5割農薬削減を進めており、90%以上が実現しているとのことでした（能登では3割減農薬耕作が98%で5割はほとんど無い状況です）

佐渡では2004年台風災害で作況指数が52%に1等米の比率が17%となり2005年～2007年の米の売れ残りが約5,000t（生産量の21%）に達したことが認証米制度を進めました

②**ビオトープ整備事業**

佐渡市トキビオトープ整備事業（実績）

《面積・事業費》

年度	19	20	21	22	23	24	25	26
団体数	16	21	23	20	23	18	20	20
ビオトープ(ha)	14.1	27.3	34.5	35.2	31.6	28.7	28.2	27.7
事業費(千円)	11,502	27,283	24,953	26,536	23,608	8,803	8,667	8,497

年度	27	28	29	30	1	2	3	4
団体数	19	22	23	23	22	21	20	21
ビオトープ(ha)	26.8	28.8	29.3	29.8	28.5	28.3	30.0	30.7
事業費(千円)	8,052	8,616	8,908	9,033	8,611	8,655	9,103	9,382

交付金：25,000円/10a 経年加算5,000円（3年以上継続管理した場合）

2) **トキ野生復帰推進団体との意見交換**（12日13：30～15：00）

（佐渡市側参加者：中川克典、土屋政起・参加団体：トキも水辺づくり協議会会長：板垣徹 NPO法人トキどき応援団理事長：中川純子）



①**トキ水辺づくり**

水辺づくりについてはビオトープづくりや畦畔整備、魚道の設置を推進している、ビオトープづくりでは令和4年度で30.7haまで増加し、特に夏場の餌場として貢献している

②**NPO法人トキどき応援団**

トキ放鳥時は図1-1に示すように数多くの放鳥支援の広がりがありますが現在では大部分が事業を行っていません

そんな中でNPO法人トキどき応援団は各自が無理することなく、できる範囲で時々参加するというスタンスで次の活動しています

図1-1 トキ野生復帰に関する様々な事業形態と環境経済的な繋がり (本間 2011)

区分	団体名	区分	団体名
集落有志	生樺の自然を守る会	全国型NPO	NPO樹恩ネットワーク
	明日の・のうら 21 推進委員会		NPO民間稲作研究所
	月布施を考える会		NPO樹木・環境ネットワーク協会
	久知河内ホテルの会		里地ネットワーク
	湯上水辺の会		片野尾とき舞株式会社
	岩首棚田とき共生未来	企業	Team ECO ときプロジェクト
	あすの城廓をつくる委員会		新穂エコロジーチーム (NET)
	トキの舞う赤玉		新潟県総合生協佐渡支所
	豊岡・トキ班		佐渡汽船観光(株)
	立間・トキ班		スマイル
瓜生麓トキと水辺の会	ソニー・ミュージックコミュニケーションズ		
島内NPO	トキの田んぼを守る会	行政 (オブザーバー)	JTB 関東
	トキと自然と農業の共生を進める会		(財)自然環境研究センター
	トキの野生復帰をめざす農業者の会		トキ交流会館
	NPO・MOA 自然農法佐渡普及会		佐渡市トキ共生・環境課
	佐渡とき保護会		佐渡トキ保護センター
	NPOトキの島		新潟県環境企画課
学校	新潟大学トキ野生復帰プロジェクト	佐渡地域振興局	
	新潟県学校ビオトープ連絡協議会	北陸農政局	
		環境省	

表1-1 トキ野生復帰連絡協議会の構成メンバー(名称は平成20年時点のもの)

- ・ **野外活動**：清水平を中心に餌場づくり
- ・ **交流会**：島内外の田団体との交流
合同での活動や発表会
- ・ **探鳥会**：バードウォッチング
- ・ **勉強会**：トキや佐渡島の自然社会に関する勉強会

2018年度の活動事例

* トキの餌場づくりなど(フィールドワーク)



トキの餌場完成



冬の餌場



12月の作業(市長も参加)



九重町トキこども大使と一緒に

月日	タイトル	特記	場所	参加人数
4月22日	生樺トキの餌場づくり~清水平		清水平・生樺	11
5月13日	キセン城で餌場づくり	畑野中学3年生(女子3名)参加	キセン城	6
5月20日	紅葉山公園田植え作業		もみじ山	7
6月4日	身近な水環境全国一斉調査		大野川	7
6月11日	紅葉山の田んぼ応援隊		もみじ山	5
6月17日	社員研修in生樺	サンフロンティア不動産社員	生樺	15
7月4日	森の講座	松ヶ崎中学(男)	松ヶ崎	19
7月23日	清水平トキの餌場づくり		清水平	12
8月27日	清水平トキの餌場づくり&トキ交流会	トキこども大使(男3人:女4人)・行谷小	清水平	25
9月10日	清水平トキの餌場づくり		清水平	7
10月29日	清水平生物調査		清水平	12
11月11日	清水平トキの餌場づくり		清水平	4
11月26日	清水平生物調査		清水平	14
12月3日	清水平トキの餌場づくり	高野市長参加	清水平	6
1月21日	佐渡の冬鳥観察	観察ガイド:近辻宏帰さん	国中平野、加茂湖	14
2月18日	注目の現場視察「冬の小倉千枚田」	観察ガイド:佐々木秀昭さん・細野幸太郎さん	畑野	7
3月4日	注目の現場視察「トキ訓練施設と周辺の田んぼ」	観察案内:井澤正人さん・本多与八郎さん	新穂正明寺	9
3月18日	清水平生物調査		清水平	15
	参加人数計			195

300人

2. 今回、見学した施設等

①見学施設位置関係

図-1



トキ交流館、トキの森公園、トキテラス、順化ゲージは上図に示したが新穂地区に集中しています

- ・トキ交流館は佐渡の野生復帰諸団体の交流拠点としての役割を果たしている

②トキの森公園

- ・トキの森公園は多数のトキの飼育、自然営巣と子育てを実践するペアを飼育している、また展示資料館ではトキに関する資料を展示しています。

図-2



ゲージ内のトキ



ゲージ内のトキ



ふれあいプラザのペア



ペアーの巣



ふれあいプラザではこんなに近くにトキが



③ トキテラスと順化ゲージ

- ・トキテラスは高台に環境省が設置眼前に広がる水田地帯に飛来するトキがスコープにより観察できます (図-1参照)
- ・順化ゲージは放鳥個体が野生下で健全に生活を営み営巣子育てができるように放鳥直前に訓練するゲージです、今回は鳥インフルエンザ予防のため見学ができませんでした

図-3



④野生下でのトキの観察

・12日7:30から9:30の2時間トキガイド（品川氏）案内で観察

当日は冬に珍しい晴天下での観察と成りました

トキを観察できた場所の概要を下図にしめました、これ以上の観察ができましたが場所の特定が出来ませんでした、場所は不明ですが圧巻は15羽程度の群れが狭い谷間を横断するシーンでした、観測中に31羽のトキが観測されました



トキが餌場とする場所が山の中の田圃ではなく、基盤整備された水田であり1枚当たりの面積は0.3~1haで数十haもある大きな圃場でありました。

・観察されたトキの写真



トキガイド品川三郎氏のガイドで1月12日
7:30総勢8名でトキ観察に
能登トキファンクラブ5名
テレビ金沢スタッフ2名



畦道で4羽のトキ確認



拡大



水田の上を飛翔するトキ



拡大



住宅のすぐ横で餌を漁るトキ



水田上を飛翔するトキ

**観測では人は200m,車は100m以上近付かない、車からは絶対下りない
撮影は車の中から行うことを厳守すること**

佐渡の生椿地区は「トキの聖地」と言われて来た山間地で、ビオトープなどトキ生息環境を整え、ハードリリースでトキを放鳥しましたが、放鳥されたトキは居つかず平地の水田に移動しました、佐渡のトキは大部分が山間地には居つかず水田地帯で生活しています、絶滅した日本のトキは本来、郷の水田地帯に生息していましたが、人間が追い払い山間地に追いやられた経緯があります、今日の山間地では水田が放棄され餌場が失われており、現在水田地帯に住んでいるトキを人間が驚かすと餌が少ない山間地に逃げこみ、少ない餌が原因で個体数が減少する恐れがあります、どのような状況であってもトキを驚かさないことが大切です、そのため佐渡では次の専門職を養成しています

- ①トキガイドの養成：トキを観察する場合は可能な限りトキガイドを利用する
- ②トキ生息地見守隊の養成：生息地を定刻に見回り観察者を指導する
- ③トキモニターの養成：トキの数、健康状態や生息環境の変化などの監視を定期的実施する